

日本女性会議2013あなん参加レポート

報告者 高木 保子さん（平野台）



学んだ内容のまとめ

今回の第30回日本女性会議から「男女共同参画」の言葉が明記された。私が選択した第9分科会「DV（ドメスティック・バイオレンス）のない地域づくり～男たちの挑戦」においては、40～50代の男性3人が、パネリストとして登場した。DVとは身体的暴力だけでなく、ふつうの夫婦の間にも、支配や暴力が潜んでいて、その原因に性差別が背景にあることに気付いて、相手を尊重するには？家族の人権とは？と考え動き始めたプロジェクトの報告だった。今まで、被害者側からの研修しか受けていなかったもので、男性の意識改革が重要だと男性自身が気がついたことに関心した。

翌日の全体会で、徳島県知事から、DVの増加に伴い、こどもと女性の相談を同じ部署に設定、デートDVをアニメ化して、小中高生に教える話があった。また、日本の男女共同参画施策の現状と今後の課題についての報告と、「食育」の講演では、こどもたちに家事をさせて、自立できるように。

また、記念シンポジウムでは4人のパネリストによるトークだったが、その中で、父親から男らしくないと言われて育ち、「らしさ」からの解放を目指し、メンズリブ運動に関わった男性の話が印象的であった。

参加の感想と今後について

田園風景の中にポツンと建物があり、ゆったりとした時間が流れる小さな町徳島県阿南市（人口約8万人）が、全国から2000人以上の参加者を迎えて、会議をどのように運営していくか興味があった。交通、施設等インフラの発達していない中、手作り感とおもてなしの笑顔あふれる会であった。徳島新聞を折ったレジメを入れる袋には、すだちジュースとうちわが入っていて役立った。10月というのに暑かった。阿南駅から全大会のあるスポーツセンターに向かう巡回バスの中から見たのは、歓迎の文字と20体程のかかし、会場には、折りたたみのパイプ椅子が1200個程並べられ、労力が偲ばれた。

阿南の女性たちとその想いに協力した男性たち、企業、行政（市・県）が一体とならないと成立しない会議だったと思う。

徳島駅、朝7時半。駅前で旗を持ち案内してくれた女性達の笑顔、岡山から阿南までの往復の電車には会議参加者で満員だったが、隣合せた女性たちとの交流、全国から集まっているから情報が満杯。元気をもらった。

職場や家庭からDVをなくそうとしている男性たちが「相手を思いやると、自分にも返ってきます。」と言われたことは、足元を見直すことで男女共同参画は進んで、お互いが生きやすい世の中に変わっていくことに気づいたのだ。個性を大切に共生できる社会が広がることを願っている。